

ディベートを導入した

高校英語授業
改善に向けた
実践シリーズ

授業実践

「発表力・考える力をつけるための指導ステップ」

討論型・発表型の
授業を作り上げ、
英語力・論理的思考力を
高めるメソッド！



高校英語授業改善に向けた実践シリーズとは

高校英語授業は、従来の知識伝達型からアクティブ・ラーニング型授業へ、知識を覚える学習から活用、習得する学習へ、そして学んだことを実際のコミュニケーションにおいて、思考して表現できるようになるための学習スタイルへ、という方向性を示しています。それらを踏まえ、この「高校英語授業改善に向けた実践シリーズ」では、討論型・発表型の授業をどのように作り上げるか、どのように進めるかについての方法論を学び、ヒントやアイデアを得ることをねらいとして、様々な実践例を取り上げていきます。

今作では、福井県立藤島高等学校でのParliamentary debate(授業用即興型ディベート)とAcademic debate(準備型ディベート)を導入した授業を取り上げました。Parliamentary debateでは、準備時間が少ない即興型のため、瞬時の思考力を求められ、考えを何とか伝えるコミュニケーションの瞬発力や意欲的な姿勢を養うことができます。また、Academic debateでは、準備時間が十分あるため、資料を読み込む力とスピーチを書く力を養え、相手の反駁に応じるための準備や即興的な対応によって論理的思考力を養います。この授業では、授業者である三仙先生による活動のねらいや注意点の提示の仕方、活動の手順の工夫、生徒の気づきをどのように促しているか、指示をいかに的確に手短に行っているか、生徒の活動にどう関わっているかなど、様々な指導ポイントについてご覧いただけます。

授業変革への教師の資質・姿勢の向上

- Indeed,** ディベート、ディスカッション、スピーチ、プレゼンテーションなどの指導には、確かな指導力と英語力が必要です。
- However,** 生徒とともに易しいことから始めてみましょう。
- Then,** 少しずつ即興対応力、生徒のモデルとなるスピーチ力がつきます。

使用教材

CROWN English Communication Ⅱ New Edition
Lesson8 Working against the Clock / 三省堂 平成30年発行

監修・解説
山岡憲史 (立命館大学 教育開発推進機構 教授)

授業者
三仙真也 (福井県立藤島高等学校 英語科 教諭)

授業クラス
福井県立藤島高等学校 2年4組

英語の得意な
生徒だけでなく
全ての生徒に
適用できる授業実践！

先生方も、これからの時代の授業に対応できるように、
焦らず楽しみながら自分の授業を改善していきましょう!!

E147-S 全2巻(分売不可) セット特価 15,000円+税(送料別)



パラメンタリー・ディベート編 (55分)

高校英語授業改善に関する概論と、パラメンタリー・ディベートを取り入れた50分の授業実践を、ほぼノーカットでご覧いただけます。

■ 高校英語授業改善に向けた実践シリーズ概論

- ・ 高等学校英語授業の方向性
- ・ 高校英語教育を取り巻く状況、今後の目標
- ・ 2022年実施「高等学校学習指導要領」のめざすもの
- ・ 授業をいかに統合型にするか？

■ パラメンタリー・ディベートを取り入れた授業実践

- シリーズのねらいと授業で見てほしい点

<授業概要>

地雷除去に関する自らが果たすことのできる役割について、warm-upとして考え、自分の新たな考え方を見つけ、即興的に述べさせる。また、ディスカッションで全体の意見共有をし、相手の立場・考え方をふまえ、俯瞰的な立場から自分について考えさせる。

<授業のねらい>

生徒にとってrelevanceが高くない事象「地雷除去」に関して自分のこととしてとらえさせ、「募金」という手段以外にどのような方途があるか考えさせる。また、社会性の高い話題に対して自分の意見を述べるとともに、即興的に自分の意見を述べ反論させる。

- **Oral Introduction**…… 本時の学習内容について確認
- **Warm-Up**…… “What can we do for the mine clearing operation?”について意見共有(ペア・ワーク)
- **Parliamentary Debate**…… “Donating money is the best solution”について
政府側・野党側に分かれて意見を述べ合う
- **Discussion**…… ディベートを通じて得られた考えについて意見共有

高校英語授業の方向性

従来の知識伝達型の一方向的な授業から、生徒の活動中心のアクティブ・ラーニング型の授業へ

・ 知識を覚えるだけの学習から、知識を活用しながら習得する学習へ

・ 学んだことをテストで発揮するための学習スタイルから、実際のコミュニケーションにおいて、思考したことを表現できるようにするための学習スタイルへ



ディベートを通じて
自分の考え相手の考えを
客観的にみる！

50分の授業の中でどのようにディベートを取り入れるか...!?



知識を活用しながら習得し、
思考したことを
表現できる学習スタイルへ！

E147-2 準備型ディベート

アカデミック・ディベート編 (94分)

アカデミック・ディベートを取り入れた授業実践と授業内容の解説、及び監修者・授業者の対談で授業の目的や狙い、更に今後の授業改善のヒントを探ります。

■ アカデミック・ディベートを取り入れた授業実践

<授業概要>

教科書レッスン全体を通じての学習内容をwarm-upとしてリテリングし、その内容を参考にしながら極めて国際性・社会性の高い内容に関して自分の意見を持ち、発表させる。また議論のまとめとして主人公より得たメッセージを見せ、一人の高校生として何ができるかを考えさせる。

<授業のねらい>

ロボットの役割、人間との棲み分けなど、発展性のある内容であるため、レッスン冒頭からこの問いに関して発表をしておき本文を学ぶ傍ら、常に人間の果たす役割について考えさせる。さらに「人間の幸せ」という文言をあえて論題に入れることで、「それがどんなものか」「どのようにすることで成し得るものか」などを生徒一人ひとりに考えさせる。

- **Oral Introduction**…… 本時の学習内容について確認する
- **Warm-Up**…… 「広瀬茂男氏の功績」について意見共有(ペア・ワーク)
- **Academic Debate**…… “Robots can contribute to the happiness of human beings.”について
肯定側・否定側に分かれて意見を述べ合う
- **Discussion**…… “Robots can contribute to the happiness of human beings.”について意見共有

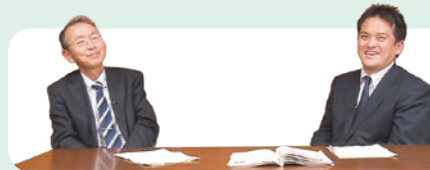
■ 監修者による授業解説

三仙先生の授業をもとに、監修者が各授業を振り返る。

- ・ 教育活動としてのディベート(授業用即興型と準備型)
- ・ 生徒の声:「伸びた」と思う資質について
- ・ 福井県立藤島高等学校の実践から学べること
- ・ 授業変革への教師の資質・姿勢の向上

■ ディベートを導入した授業の組み立てとねらい(山岡×三仙・対談)

一時間の授業の組み立て(手順)からディベートのテーマ・問いの設定、授業準備や授業に取り入れることの狙いや意義など、監修者と授業者が授業を振り返りつつ対談を行う。



商品詳細・ご注文は通販サイトから… www.japanlaim.co.jp/

サンプルムービー配信中

JLC ジャパンライム株式会社

TEL.03(5840)9980 FAX.03(3818)6656

ジャパンライム E147

検索

〒113-0033 東京都文京区本郷 5-25-14

【お申込み・お支払い方法】○ご希望の商品番号を指定し、電話かハガキ、FAX、もしくはDVD通販サイトにてお申込みください。受注確認後3~6営業日後でお届けします。

○送料は1回につき741円+税。○到着日指定で「代金引換(手数料無料)」の宅配便でお送りします。○カード(VISA、MASTER、AMEX、他)もご利用できます(分割可)。

E147
2018.12